

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200802		
法人名	有限会社 篠路愛護苑		
事業所名	グループホーム からまつ		
所在地	札幌市北区篠路3条7丁目9-17		
自己評価作成日	平成22年10月12日	評価結果市町村受理日	平成22年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>どのスタッフも全利用者の病状、体の状態、性格などを把握し、その人が、その人らしく、生活できるように援助している。</p>

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170200802&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年11月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>店舗を改造したグループホームで、そのため、程よい広さ、適度な張り出しや奥まった部分を形成し、馴染みやすく居心地のよい空間を作り出している。 職員が利用者一人ひとりについて、健康状態、生活の中身、性格、経歴などを正確に理解し、それにふさわしい介護が行われている。身体状況からの判断だけではなく心情面にも細やかに配慮して手を差し延べるなど、きめ細かな介護に務めている。 職員間のチームワークがスムーズで利用者と心置きのない関わりができており、明るく笑い声が響き合う和やかな雰囲気がかもし出されている。 家族とのコミュニケーションがよくできており、家族からの信頼が厚い。 重度化の場合でも利用者の残存機能をできるだけ低下させないよう、時間を要しても食事介助を必要最小限に留めたサポートを行っている。 排泄支援が行き届いており、自立に向かって改善が実現している例もある。</p>
--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はよく見えるところに掲示しており、いつも念頭に置き、実践している	歳を重ねて障害があっても仲間やスタッフと助け合い、地域と触れ合いながら自分らしく過ごしたい、という趣旨の理念を掲げて茶の間に掲示している。2年前に全職員が議論し合って確認したもので、その後の新入職員にも説明してよく浸透している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の総会や、交流会に参加し、つながりを持っている	町内会に参加して、総会や夏祭り、忘年会などの行事に参加し、地域の防災訓練にも参加している。道で顔を合わせた時などに声をかけてもらうような関係ができており、このような関係をさらに深めるよう努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時に事例を話をしている		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事例報告、事例検討会の報告や自己評価の報告を行い、意見を聞いている	町内会長、民生委員、一般地域住民、家族、地域包括支援センター職員らが外部メンバーとして参加し、行事計画、実施状況、利用者の生活状況、認知症の事例、避難訓練などを報告し、意見を求めている。グループホームの理解を広げる場として機能している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは必要事項の連絡を取る程度しか出来ていない	必要な行政上の手続きや連絡、相談の範囲で接触を保ち、さらに管理者連絡会代表としての立場から市の担当者とは交流している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会を開いたり、外部研修を受けるなど行い、認識を1つにし、ケアに取り組んでいる	毎年1回程度の内部研修と外部研修参加により職員の意識付けがなされている。かつて入居の際、安全を危惧した家族の要請によって拘束衣を用いたことがあったが、職員で検討した結果直ちに中止して無事に経過した経緯がある。玄関は夜間施錠するが、日中は開放している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修会を開き、職員同士が言動に気をつけながら支援している。		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を必要としている入居者がいないため、活用していないが、自立支援は活用している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な説明を行なうと共に質問や意見が出るとその都度説明を行なっている		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望は直接、管理者に話してくれ、職員や代表と改善の話し合いを行い、運営に反映されている	管理者は自身の体験から家族の心情をよく理解しており、それを踏まえた家族対応で率直な意向を聞き出している。家族の要望に応じて医療受診に同行するなど、運営に反映されている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は管理者を通して代表者に伝え、反映されている	申し送りの時などのほかにも、日常的に職員は率直に意見や提案を管理者に提示し運営に反映されている。備品の購入や施設の改良などに実現されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者からの報告に基づき昇給や休養を行い、研修への参加などで、向上心をもてるように努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量にあわせ、研修をうけている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区のグループホーム管理者連絡会を通じて相互訪問を行っている		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居までの間に何度も話を聞く機会を設け、本人の思いを聞き取ると共に、顔を覚えていただきなじんのでいただけるよう努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までの間に何度も話を聞く機会を設け、家族の思いを聞き取ると共に、気さくに話しかけていただけよう努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームだけではなく、高齢者住宅などを紹介し、どのサービスが適しているのか話し合っている		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔のはなしをしていただいたり、経験話などを聴かせていただき、知恵を貸していただくなど、家のおばあちゃん的な存在で接している		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの出来事を共に楽しんだり、悩んだりしながら家族の方でないと補えないことはお願いしている		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達からの電話を取り次いだり、お祭りへ出かけたり、神社へのお参りなど支援している	左記のほかに正月には自宅外泊などを実施している。利用者は長期入院後の利用であったり、遠方から市内に住む子供の元への転居後の利用だったりなので、馴染みの場所や人を訪問することは困難である。また、家族が望まないケースもある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事、レクリエーションなどで入居者全員がかかわりを持てる時間を作っている		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した家族がつながりを拒否しているので支援できていないが、今後終了する方が居ればつながりを持ち、支援していきたい		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを傾聴し、意向の把握をしている。また、出来るだけ、本人本位に支援できるよう検討している	本人の思いに傾聴することに加えて、身体状況から判断したり、独自の行動からサインを読み取ったり、家族情報、過去の生活などを基に推測するなどして、思いや意向の把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの段階で極力生活歴を把握できるようにしている。また、日々の会話の中から、馴染みの暮らし方など把握している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活ペースを大切に、出来ないことへの支援を心がけている		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行うと共に変化が見られたときは随時カンファレンスを行い、即、実行に移している。また、家族にも参加していただき、現状を把握していただき、意見を求めている	見直し時期が近づいた時に、現状の介護計画に対する職員の意見の記入を求め、また、本人の意見を求め、それを基に職員および家族も参加してカンファレンスで内容の検討を行う。計画作成担当者がまとめ上げたものを全職員と家族が再度確認し実行に移す。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録を作成している。変化があった時や、こんなことが出来たよ。などの情報は送りノートで情報の共有を図っている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本はケアプランだが、毎日ちょっとした変化があるので、その時のその人の状況でいろんな声掛けを試みたり、支援の仕方を工夫している。送りノートで共有している		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握しきれては居ないが、町内会や区役所からの情報をもとに活用しているものもある		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診のときは必ず同行し、体調を伝えたり、注意事項を聞くなどし、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医は本人・家族の希望に沿って決め、協力医以外の受診は原則家族同行としているが、事情によっては職員が同行する。家族同行の場合、手紙を渡して医師に状況を伝え、家族から結果を確認する。	

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ちょっとした変化でも訪問看護師に伝え、相談したり、受診の指示を受けている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から、かかりつけ医や訪問看護師との情報交換を行ない関係作りを行なっている		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期が見えてきた段階で、家族や病院と話し合いを行ない、家族、病院、スタッフで方針、情報を共有し、支援している。	医療連携体制開始の際、全利用者・家族に重度化した場合の指針を説明し、文書により確認を交わし、その後入居があった都度同確認を交わしている。看取りはその時期が近づいた時に家族と相談し、希望により、重度の医療を要しない限り看取りを引き受ける。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習会には参加しているが、訓練は定期的には行なえていない		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は、昼、夜、それぞれを定期的に訓練している	毎年2回、昼および夜間を想定した避難訓練を消防署の参加・協力の下に実施している。地域住民の協力も個別に得ている。一次避難場所は近くの広場、二次避難場所は系列施設に確保している。職員の救急救命訓練も近く実施予定である。	地震を想定した対策と訓練実施、および災害に備えた備品などの整備、避難訓練への地域住民の参加を期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを大切に個々にあった声掛けを心がけている	利用者のバックグラウンドや性格、その時々的心情に応じた声かけや接遇に努め、職員は優しい眼差しをもって対応し、年長者に対して敬意を払っている様子が窺える。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の機会を多く持ち、傾聴しながら、自己決定できるように持っていく		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況によっては決まりや職員の都合が優先されることもあるが、個々の希望を優先し支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度美容師が来ている。外出時や毎日の服も希望をきいている		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの髭取りなど、軽い作業は手伝っていただいている。食事は楽しんでいただけるよう支援している	とうきびや枝豆の拵えやテーブル拭き、食器の取りまとめ、おはぎ作りなど、個々の力に応じて食事の作業を一緒に行っている。誕生会、季節行事には、好みや希望を取り入れた献立や握りずしなども提供し、戸外での食事も楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の量や大きさに配慮し、食事が取れないときはおやつ等で補っている。また、摂取量を記録に残し、把握している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは徹底しており、時には介助している		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表により、習慣や、パターンを把握し、声掛けにて失敗をしない援助をしている。また、一時的にオムツやパットを使用しても状態を見て止めてみる事も行なっている	排泄記録や本人のサインによって、個々のパターンやリズムを把握し、タイミングを掴み、声かけ誘導に努めている。重度化の場合でも自室にポータブルトイレを設置し、可能な限り自立排泄を支援している。衛生用品使用開始や中断などのアセスメントを丁寧に実施している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションにストレッチを取り入れ安全に出来る運動を取り入れている。また、食事だけでなく、おやつにも牛乳や食物繊維を取り入れている		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や、入りたいと思う気持ちを優先し入浴しているが、職員の動ける時間になってしまい、時間的には個々の希望に添えてない	毎日、湯を沸かし、午後の時間帯で入浴支援を行っている。入浴拒否の利用者が自ら曜日を取り決めてスムーズな入浴となったケースがあり、弛まぬ職員のサポートが実を結んでいる。失禁時はその都度、シャワー浴を行っている。湯船の湯はりをたっぷりにするなど、満足感に配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態や、その時の状態で、昼寝をすすめたり、見たいテレビに合わせてたり、気持ちよく眠れるように支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全部の薬を把握できてはいないが、臨時で出た薬は目的などを把握できている。特に注意の必要な薬は薬剤師から伝達されており、情報の共有は出来ている。誤薬のないように工夫をしている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションやお手伝いに、好きなこと、出来る事を取り入れ、楽しみや喜びを持っていただいている。時にはかいものなどで、気分転換を図っている		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全ての希望には添えていないが、日にちを調整し買い物に出かけたり行事で取り入れている。ご家族とのお出かけは支障のないように段取りし、考えられるリスクを説明し、対処できるよう支援している	日常の散歩においては困難なケースが多いが、畑仕事の見物や事業所前の祭典の鑑賞など、機会を捉え外気に触れることを大切にしている。果物狩り、さとらんど、百合が原などへの行事的外出にはお弁当や焼き肉などの楽しみを盛り込み、利用者全員で出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をもっている方もいるが、そのお金を使う機会が少ない。必要なものを頼まれ購入してくる場合もある		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば快く引き受け、番号を回すなど出来ない部分はお手伝いしている		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、居心地がいいように温度、湿度などに気をつけている。また、行事の写真を掲示、毎月、季節の飾りつけを行なっている。	玄関はガラスの引き戸で解放感があり、街の明かりや人の往来なども見渡せ、昼夜を認識しやすい造りである。幅広い階段の中央にも手すりを設置し、両手で掴むことや同時の昇降が可能であり、既存の設備に工夫を凝らし活用している。一人ひとりの居場所を確保した程よい居間の空間には、季節の設えや利用者の作品、絵画を上品に掲示している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、利用者同士が交流を持てる場として提供している。フローアにはたたみのスペースもあり、好きに使っていただいている		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お嫁に行ったときのダンスを持ってこられている方も居るが、ほとんどの方が、入居するために用意をしたかたも居る	利用開始の際に家族へは、使い慣れた家具などの持ち込みを奨めている。馴染みの家具を設えているケースは少ないが、お気に入りの衣類、馴染みの日用品などを愛用できるよう整えている。筆筒へのラベル表示など、利用者の使い勝手に配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどの表示を作り、場所がわかるようにしたり、フロア内に手すりを付け、安全に自分のペースで歩けるようにしてある。障害物を置かないことにも気をつけている		

目標達成計画

事業所名 グループホーム からまつ

作成日：平成 22年 11月 23日

市町村届出日：平成 22年 12月 1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地域住民も高齢化していることや、若い世代でも、日中仕事に出かけており、避難訓練に、参加していただけていない。また、災害時の備品の準備が出来ていない	地域住民も参加できる避難訓練の実施 災害時の持ち出し備品の準備	働いている地域住民も参加できるよう、休日に避難訓練を実施する。回覧板を利用させていただき、地域住民への参加を依頼する。 災害時持ち出し備品の準備をする	3ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。